

[SPF 豚農場紹介]

佐々木 SPF 豚中核種豚場

本農場を紹介するに先だち、千葉県における SPF 豚普及事業の概要について簡単に説明を加えておきたい。

千葉県では、昭和44年、わが国では最初の「畜産目的 SPF 豚生産施設」を設置し、SPF 豚の実用化に関する試験研究を開始した。本研究を取り上げた理由は、養豚経営の規模拡大に伴って、大きな損失を与える豚の慢性疾病群の清浄化による養豚経営の安定と消費者に対する清浄で良質な豚肉の生産提供である。本県の SPF 豚普及計画は、実用化の対象を一般養豚家、特に多頭飼育自立経営農家とし、その集団による団地化を形成して行くことにある。すなわち、各地域の SPF 豚増殖基地である「SPF 豚中核種豚場」を中心に、その周囲に SPF 豚自立経営農家群（一貫経営農家）を調和よく配し、SPF 豚団地を形成し、地域的な豚病清浄化を組織的に推進し、養豚経営の生産性向上を図ることにある。

千葉県における実際面の普及システムは、以下のようになっている。すなわち、県畜産センター養豚試験場は、Primary SPF 豚の作出生産育成配布および実用化に関する種々の試験研究などを実施する。SPF 豚中核種豚場は、養豚試験場から導入した Primary SPF 豚を基礎豚にし、Secondary SPF 豚の増殖（純粋種および交雑種など）、育種改良、能力検定などを実施し、優良な種豚および繁殖用素豚（LW など）を SPF 豚自立経営農家群（一貫経営農家）に供給する。

SPF 豚自立経営農家群は、SPF 豚中核種豚場

から導入した Secondary SPF 豚を利用して、繁殖肥育一貫経営による清浄で良質な SPF 豚肉（LW・D など）の生産供給をする。

このように SPF 豚普及システムは、それぞれの段階における役割分担が明確にされている。

SPF 豚の流れは、県畜産センター養豚試験場をピラミッドの頂点として→ SPF 豚中核種豚場→ SPF 豚自立経営農家群へと上から下へ、ワン・ウェイ方式になっている。SPF 豚生産利用システムは、各疾病の浸潤を防止するために、閉鎖集団飼育方式が大原則になっている。

SPF 豚集団内における SPF 種豚の血液更新による育種改良は、県畜産センター養豚試験場の SPF 豚生産施設の果たす役割が非常に大きい。すなわち、一般豚群中の優良な種豚を如何にして計画的に、オペ用素豚として導入するかである。

本県における SPF 豚集団の改良は、千葉県 SPF 豚協会を中心に、SPF 豚改良委員会を設置して、SPF 豚改良目標を設定し、それに基づいて、Primary SPF 豚生産用素豚の選定基準を設定し実施している。近年は、自県の系統造成豚の他、これに相性の良い他県で造成された優良な系統豚を主体に計画的に導入している。

以上前置が長くなったが、本県の代表的な中核種豚場である佐々木 SPF 豚中核種豚場を紹介する。

所在地：千葉県印旛郡富里町十倉 946

TEL 0476-94-0356

設置年月：昭和47年2月

場主：佐々木三郎 場長：佐々木作三

SPF豚農場紹介

本農場は、前述したように、千葉県 SPF豚普及事業の中では、SPF 豚中核種豚場に位置している農場である。すなわち、県畜産センター養豚試験場で作出生産した Primary SPF 豚を導入し、これを基礎豚として、Secondary SPF 豚を生産増殖し、周辺の SPF 豚自立経営農家群へ供給する役割を担っている。

本農場の飼養規模は、およそ次のとおりである。

1. 常時飼養頭数および品種

種雌豚：220～250頭 (L, W, D, H)

種雄豚：35～40頭 (W, L, D, H)

育成豚：60～80頭 (L, W, D, H)

子豚および肥育豚：約2,000～2,200頭

2. 種豚および繁殖候補豚の供給能力

年間：約1,300～1,600頭

3. 主な供給先

県内 SPF 豚自立経営農家群を最優先し、更に余力のある場合には、県外等の SPF 豚農場へ供給している。

佐々木農場の特徴

1. 種豚の選抜技術や飼養管理技術レベルが高い。

永年の経験と恵まれた立地条件、完備した豚舎施設で飼育され、しかも種豚の育種改良が進んでいる。(写真)

2. 衛生管理および養豚場周辺の徹底した清掃、管理に努めている他、特に環境保全対策に力を入れ、公害対策に工夫がされている。

3. 飼養豚および出荷豚は、千葉県 SPF 豚検定実施要領に従って千葉県家畜衛生研究所、家畜保健衛生所、養豚試験場等の関係機関による徹底した SPF 検定が実施されている。

佐々木農場のあゆみ (主なもの)

昭和47年2月：SPF 豚中核種豚場竣工

〃 47年3月：Primary SPF 豚第1回目の導入(養豚試験場より)

〃 48年8月：NHK 明るい農村出演(2回)

〃 48年9月：韓国へ SPF 種豚輸出

〃 50年2月：農林大臣(安倍晋太郎)来場視察

〃 51年1月：第5回日本農業賞受賞

〃 51年11月：千葉県農業奨励賞受賞

〃 54年3月：北朝鮮へ SPF 種豚輸出

〃 55年10月：昭和55年度千葉県肉豚共進会名誉賞受賞

〃 62年11月：黄綬褒章受章(千葉県 SPF 豚協会 会長 佐々木三郎)



【佐々木 SPF 豚中核種豚場】
種豚の育成および運動場

文責：

千葉県畜産センター養豚試験場

宮原 強